

館報 教育記念館

No. 95
令和2年11月 発行



【お笑い道場】
「えー、毎度ばかばかしいお笑いを…」

きらめき未来塾



【思考道場】「表と裏をひっくり返すには…」



【右脳活用道場】
「ここはどうすればいいですか…」



〈肖像画で見る郷土の先賢 世界の架け橋 展〉



〈第18回さんすうワールド展〉

主な内容

◎教育時評 富山県小学校長会 会長 白江 勉	2
◎第30回 郷土の先賢顕彰者 田中 きみ	3
金山 穆韶	4
島田 七郎右衛門	5
◎企画展 「肖像画で見る郷土の先賢 世界の架け橋 展」	6
◎恒例展 「第18回さんすうワールド展」	
◎「きらめき未来塾」 右脳活用道場 思考道場 お笑い道場	7
◎令和2年度「学ぼう！ふるさと未来」支援事業	
◎恒例展「第17回子どもの目 自然不思議発見写真展」	8



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 富田 利通 印刷所／いおざき印刷株式会社



何が大事か ～コロナ禍とGIGAスクール構想の今～^{*}

富山県小学校長会

会長 白江 勉

教員になって10年過ぎた頃、勤務校の管理職から掛けられた一言「何が大事か」。私が迷ったときに、真っ先に思い浮かべる言葉である。コロナ禍の今「何が大事か」、GIGAスクール構想実現後を見据えて「何が大事か」考えてみたい。

6月、臨時休業から学校が再開された。子供たちにとって何が大事か、自問自答した。私の答えは、「力を合わせて楽しい学校」だった。多くの子供たちが、学校へ行きたいという願いをもっていた。教職員も、子供たちに会えることを待ち望んでいた。保護者も、学校の存在意義を再認識していた。つまり「学校ロス」を感じていたのである。学校は、子供たちにとっての大切な居場所なのだ。

コロナ禍では、今まで当たり前に行えていたことができない。できないから、全ての行事を中止にすることは、簡単である。学びを保障するために、授業時数の確保が最優先。第二波に備えて、とにかく先に進めるべき。管理職の多くがこのような考えるのは、至極当然である。

しかし私は、そこには何が大事か、学校は誰のための学校か、という視点が欠けているように思う。可能な限りの楽しい代替行事が必要不可欠である。

日本教育新聞の社説に「長い2学期」について、次のように書かれていた。「学校行事に挑戦する目標を設定して、子供の学校生活に変化と潤いをもたらす。それが長い2学期を無事に乗り越えるための先人教師たちの知恵だった。今年の2学期は行事も少なく勉強だけの日が続く。残暑の厳しい8月下旬から学校生活が始まり、その疲れは次第にボディーブローのようにきいてくるだろう。それは教師も同様だ。秋風

とともに疲れがたまっていくかもしれない。」全く同感である。学校ロスを感じていた子供たちが、変化と潤いのない学校生活に出会ったとしたら、裏切られた気持ちになるかもしれない。

GIGAスクール構想実現後の新しい教育の在り方も、大きな課題である。何が変わり、何を準備しておく必要があるのだろうか。私見ではあるが、スピード変化への対応力が、まず求められるのではないかと予想している。例えば、現在のグループになって話し合い、ミニホワイトボードに記録して、前に出て発表する授業場面を想像してほしい。今後、一人1台のタブレットを活用すると、子供たちの入力した考えが、すぐに大型モニターに映し出される。どの考えを最初に取り上げ、どのように展開していくか素早く判断する力等が求められ、授業のテンポは確実に上がるだろう。

しかし、ここで間違っはいけないことは、タブレットが導入されれば全て上手くいくという妄想である。機器を扱うことから、学習規律が今以上に大切になる。学級全体の子供たちを見る力も磨かなければならない。つまり、子供たちの状況を瞬時に把握し、指導する力は変わらないのである。

大きな変化の今、未来を創造する子供たちの礎を築く教員として、時代の流れを感じながらも、強い信念をもって子供たちに向き合いたい。

※GIGAスクール構想

児童生徒向けの一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想

第30回 郷土先賢室顕彰者紹介



富山県美容界の母

たなか
田中 きみ (1901～1991)

田中きみは、明治34年（1901）11月3日、津田源作とかのの長女として、西礪波郡若林村（現 小矢部市）に生まれた。18人が同居する家をきりもりする母を見て育ったきみは、「母を楽にさせてあげたい」と願うようになった。

大正6年（1917）、きみは15歳で富山市内にあった柴田髪結店へ修業に入った。人一倍熱心に働き、1年もすると一通りの仕事をこなすようになった。そして大正7年（1918）7月、16歳で独立し、花柳界でトップクラスの芸者が集まる高岡市桐木町（御旅屋）に髪結店を開業した。当時の髪結は、顧客の自宅等で髪を結うのが主流であったが、きみは自宅の1階に鏡と椅子を置き、顧客に訪れてもらうという今の美容院の形を取り入れていた。「美しく仕上げ、気持ちよく帰ってもらうこと」を心がけて働くきみの仕事振りは、早く丁寧だと評判になり、多くの芸者がひいきにしてくれるようになった。大正8年（1919）、17歳で紋付絵師の田中直次郎と結婚し、その後3男1女に恵まれた。

流行に敏感な芸者衆を相手にするきみは、店の休みに、日本の美容界の草分け的な存在だった山野愛子が経営する東京の美容室（山野美粧院）へも通った。山野のパーマネントの技術を見よう見まねで学んだきみは、昭和13年（1938）、富山県で初めてとなるパーマネント屋を開業した。新しい技術を次々と取り入れ、腕も確かなきみの店には、県内外から多くの女性客が訪れた。しかし、太平洋戦争が激しくなると、パーマは敵国の髪型であるとされ、きみは警察署に何度も呼び出され、パーマをやめるよう圧力を受けた。しかし、「女性が美しくなろうとする心まで失いたくない」という思いから、店を守り通した。

戦後間もなく、山野愛子が主催する全国美容コンクールが初めて開かれ、審査員を務めたきみは、美容界のリーダーの一人として一目置かれることになった。昭和24年（1949）、保健所から美容組合設立の依頼を受けたきみは、先頭に立って県内の美容師を調査し、その年に「富山県美容同業組合」を設立し、初代組合長に選ばれた。

昭和25年（1950）、美容師になるためには、美容学校等で国家資格を習得することが必要になった。しかし、地方の組合が美容学校を設立することは資金的に難しく、また、個人においても中央の美容学校に通うことは大きな負担であった。きみは、通信教育でも国家資格を習得できるようにと、当時の厚生大臣や地元出身の国会議員に強く陳情を続けた。昭和28年（1953）、きみの働きが実を結び、待ち望んだ法案が通過した。そのことをラジオで聴いたきみは、病身の直次郎と手を取り合い泣いて喜んだ。昭和32年（1957）、「富山県美容業環境衛生同業組合連合会」が設立され、きみは初代理事長となった。

60歳を前に、店を子らに任せ美容業を引退したきみは、富山市内の神通川河畔に料理旅館「神通荘」を開業した。生涯経営者兼女将を続けたきみは、平成3年（1991）9月2日、神通荘の一室で化粧をしていた最中に脳内出血で倒れ、2日後に息を引き取った。女性の美を追求し続け、富山県の実業界の発展に尽くした一生であった。享年89歳。

〈専門員 松田 啓宏〉



当時の田中美容院
(高岡店内の様子)

— 親族所蔵 —



昭和初期のパーマの様子

— 「目で見える戦争とくらし百科2」
2001年 日本図書センターより —



真言宗の真髓を究めた人

かなやま ぼくしょう
金山 穆韶 (1876～1958)

金山穆韶（本名 岩太郎）は、明治9年（1876）10月30日、新川郡文珠寺村（現 富山市大山）に金山忠吉と母 はる の次男として生まれた。幼いときから信仰心篤い家族から影響を受け、寺にお参りしたり高僧の話を聞いたりする機会が多く、僧になることにあこがれをもつようになった。そして、明治21年（1888）3月、12歳の時、大岩山日石寺に入門し「法龍」の僧名を受けた。日石寺での修行中、3年程体調を崩したが、その間、戒律を守り、哲学や仏教の知識を学んだ。明治30年（1897）4月、日石寺の推薦により、高野山大学林（明治40年より大学となる）に入学して、真言宗の根本理念を学ぶことになった。

明治34年（1901）6月大学林を卒業して富山に戻ったが、真言宗の真髓を究めたいという熱い向学心を抑えることができず、再び高野山へ行くことを志した。しかし、今回は日石寺の支援を得られず、実家からわずかの仕送りを受け、高野山にある無住となっていた宝性院という庵で、4年間自炊生活をしながら修行と研究に打ち込んだ。その実績が認められ、明治38年（1905）29歳の若さで高野山大学林の教授に抜擢された。

明治43年（1910）、請われて大学を休講し、兵庫県美方の長楽寺の住職となり寺の復興に尽くしたが、寺と檀家の多くが大洪水に被災し、高野山へ戻ることになった。その後、より熱心に修行に打ち込み始めた。大正2年（1913）から昭和9年（1934）までの21年間にわたって、庵から4kmほど離れた弘法大師祖廟に参詣した。大正11年（1922）僧名を「穆韶」に改めると、48歳になった大正13年（1924）、徳島県大龍寺で50日間、虚空蔵菩薩の法号を一日に百万回唱える「求聞持法」の修行を行った。そして、昭和4年（53歳）、同15年（64歳）、同20年（69歳）に21日間、毎日3回護摩を焚き、さらに7日間は穀物を食べないという難行中の難行である「八千枚護摩法」の修行を行い、生仏一体の境地に達した。

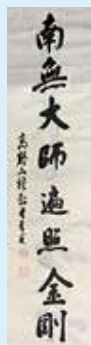
昭和15年（1940）、穆韶は戦争が激しくなる中、高野山大学の学長に推薦され、就任した。学長に就任して間もなく、戦争遂行のため政府から東京や京都の仏教系大学と高野山大学との合併の命令が何度となく出された。しかし、文部大臣に高野山大学存続を訴え続けるため、何度も上京し戦時下において絶対であった政府の命令に屈することなく、高野山大学の自主・独立を守り通した。

真言宗の僧侶としての修行、学問の研究者・教育者としての成果、学長としての功績により真言宗の人々すべてが認める存在になった穆韶は、昭和28年（1953）、78歳で「高野山真言宗管長」「総本山金剛峯寺座主」に就任した。人情味豊かで人をとがめることのない誰からも慕われる人であったという。

また、昭和24年（1949）から、地元の願いを受け、明治の神仏分離令で廃止された俱利伽羅長楽寺を再建すべく道路整備をはじめ俱利伽羅山全体の復興に尽力し、昭和28年（1953）9月、俱利伽羅不動寺本堂を完成させている。

強い意志と厳しい修行、学問の研さんを通して真言宗の開祖弘法大師の教えを体現した金山穆韶は昭和33年（1958）、高野山天徳院で亡くなった。享年82歳。

〈専門員 松井 功一〉



穆韶の直筆と落款



—大山歴史
民俗資料館所蔵—



俱利伽羅不動寺本堂

—令和2年8月撮影—



町政、県政、国政につくした高潔で信頼される政治家

しまだ しちろうえもん
島田 七郎右衛門 (1883～1962)

島田七郎右衛門は明治16年（1883）、西礪波郡福岡町（現 高岡市福岡町）に父 三代目島田七郎右衛門と母 世津 の長男として生まれた。幼名は七造である。

明治34年（1901）、富山県第一中学校（現富山高等学校）を卒業後、年老いた父から「日本経済の発展に尽くすために、台湾に四十万合資会社の支店をつくりたい」という願いを聞いた。少年時代から大変責任感が強かった七造は、会社の仕事のこと、支店の経営、現地の言葉や生活習慣などについて猛勉強し、台湾に渡り支店開設に取り組んだ。苦労の末、支店づくりに目鼻がつき、開店も間近になった明治37年（1904）、日露戦争が開戦し軍隊に入るため支店づくりを中止しなければならなくなった。日露戦争では、旅順での激戦で足を負傷し、九死に一生を得て生還した。

戦争から戻った七造は、明治40年（1907）、24歳で町の郵便局長となった。人々は、彼のことを「若いがよく出来た人である。何事も自分に厳しく、他人には広い心で接し、人を疑うことをしない高潔で温厚な人である。」と言った。この年、四代目七郎右衛門を襲名した。

政治に強い関心のあった七郎右衛門は、明治43年（1910）、26歳のときに人々に推されて福岡町議員に当選し、“人のために尽くす”政治家としての一步を踏み出した。その後、大正4年（1915）に県議員になり、大正12年（1923）には福岡町長に推され、昭和7年（1932）には衆議院議員に当選し、昭和11年（1936）にも再選され、人格高潔で信頼される政治家として活躍した。町長就任は前後4回に及び、大正12年から通算7期（20年1か月）も務めた。

特に町政では、町村合併に心血を注いだ。当時、地域の小矢部川右岸を流れる^{がんど}岸渡川、^{あらまた}荒又川、^{とうまた}唐俣川の三河川は、川幅狭くうねり曲がっており、わずかの降雨でも宅地や耕地に氾濫し、甚大な被害を与えるあばれ川であった。町の発展、住民の幸福実現のためには、三河川の根本的な改修、治水工事が必要であり、それを実現するには、福岡町、山王村、大滝村の町村合併が不可欠であった。この合併交渉は色々な問題があった大変難しいとされていた。しかし、七郎右衛門は地域の将来を考え、それぞれの人々の声にとにかく耳を傾け、河川改修には町村合併が必要であることを粘り強く訴え、合併の合意を取り付けた。このことにより、河川改修の計画は急速に進められ、流域の湿田、湿地帯、洪水を解消して米の増収、農地や宅地、工場用地が開発されていった。このことは、七郎右衛門の最大の功績として今も高く評価されている。

昭和33年（1958）9月、75歳の高齢であったが、住民の強い懇請により町長に就任した。昭和37年（1962）、現職のまま逝去。79歳であった。

〈専門員 眞田 武志〉



〈新旧河川比較〉
太線は旧河川
右より
荒又川 岸渡川 唐俣川

〔旧河川跡〕
—「福岡町史」より—



岸渡川
^{ほりさく}水中堀鑿作業
(昭和19年8月頃)

—「土地改良50年のあゆみ」
福岡町土地改良協会 より—

特別展

「肖像画で見る郷土の先賢 世界の架け橋 展」

4月8日(水)～7月5日(日)



当館には、県所蔵「郷土の先覚100人」の肖像画が保管されています。今回、東京五輪・パラリンピック開催年にあたり、その中から国際交流や国際理解など世界の架け橋として尽力した、郷土の偉人20名を選び、肖像画とともに功績や年表を作成し展示しました。

「わたしたちの故郷に、こんな素晴らしい業績を築いた人たちが大勢いたことを初めて知った…」「高峰譲吉や大谷米太郎などの偉大さを再確認した」などの感想をいただきました。

恒例展

第18回「さんすうワールド 展」

7月15日(水)～8月27日(日)



新型コロナの影響で短い夏休みとなりましたが、「算数」の面白さや不思議さを味わえるようにと20のクイズと6種の立体パズル等を展示しました。また、数学者の秋山仁氏がプロデュースした大型教材「楕円ビリヤード・二項分布パチンコ台・階段らせん木琴」や将棋の藤井聡太棋聖・王位が幼い頃に愛用していた「キューボロ」も設置し、興味関心がもてるようにしました。

「頭を使う問題や実際に触って動かせるパズル等がたくさんあっておもしろかった…」「難しかったけれど、子供と一緒に楽しみながら出来てよかった…」などの感想が寄せられました。

きらめき未来塾（夏休み期間中）

毎年、子供たちの創造力や表現力、柔軟な思考力を養うことをねらいに、夏休み中に3つの道場を開催しています。今年は、新型コロナの影響で、募集人数や講座の回数を減らしての実施となりましたが、参加した子供たちは、講師の先生方にいろいろなことを教えてもらい、様々なことにチャレンジしながら大いに活動を楽しむことができました。

★右脳活用道場（2回） 講師 森 みちこ （漫画家）

漫画づくりを通して、自分のアイディアを絵と言葉で表現する手法を学びました。みんなの作品が一冊の漫画本になるのが楽しみです。



★思考道場（2回） 講師（県内小学校教諭） 川口 和彦 前田 正秀 戸谷 亜希子 島 由喜子 西尾 尚起

ゲーム感覚を取り入れた思考活動や実際につくる操作活動などを通して、算数の楽しさや不思議さを体感できました。



★お笑い道場（3回） 講師 安野家 仁楽斎 （社会人落語家）

落語を通して、ユーモアのセンスや表現力を高めました。最後の回は、高志会館での「お笑い大会」で、小咄や謎かけを披露しました。



令和2年度「学ぼう！ふるさと未来」支援事業

《助成対象校1校に10万円助成》

子供が地域の人や自然、歴史、文化にかかわる「ふるさと学習」等に地域と連携し取り組む学校に助成する事業です。今年度は次の5校が助成校となりました。

令和元年度 助成校の1校
【高岡市立中田小学校】



〈かかし祭で踊る〉



〈炊き出し体験会〉

支援助成校	実践テーマ
朝日町立さみさと小学校	発見！わたしたちのふるさと 朝日町 ～朝日町で働く人から学ぶ～
富山市立蜷川小学校	蜷川のすてき探偵団 ～蜷川校区に眠る「すてき」を掘り起こせ～
富山市立水橋西部小学校	主体的に地域の社会・自然・文化に関わり、地域を大切に思う子供の育成 ～ふるさと水橋のよさを発見！そして発信！～
高岡市立千鳥丘小学校	ふるさとに学び ふるさとを大切にする 千鳥っ子 ～豊かな自然の恵みと地域に対する感謝の心をはぐくむ～
南砺市立井波小学校	ふるさとを誇りに思い、ふるさとの未来を考える 井波っ子の育成

9月2日(水)～10月11日(日)

学校での学習や日頃の生活の中から、子どもたちがその目を通して発見し、撮影しためずらしい自然界の写真を144点展示しました。「子ども目線で色々な見方があるものだ」と感心し、私自身、自然に対し再発見しました…」等、来場者からのあたたかい評価をたくさんいただくことができました。



「よるのにじ?」【1年】



「ぼくのおうち」【2年】



「きゅうりペンギンあらわれる! ねこビックリ」【3年】



「少ししか生きられないセミの 大事な成長」【4年】



「スマイル」【5年】

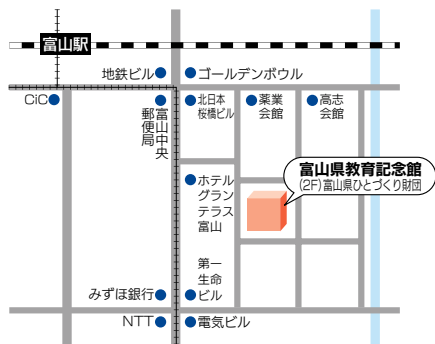


「月あかり」【6年】

これからの展示予定

- ・ 児童・生徒によるものづくり展
- ・ 富山県造形教育作品展
- ・ アイディアロボット展
- ・ 富山県中学校美術展
- ・ 富山県版造形教育作品展・秀作回顧展

10月22日(木)～11月15日(日)
11月21日(土)～12月6日(日)
12月12日(土)～1月10日(日)
1月22日(金)～2月7日(日)
2月17日(水)～3月21日(日)



あ・と・が・き

新型コロナウイルスの影響で、オリンピック・パラリンピックは、一年延期となりました。この半年間、全世界の混乱ぶりは、誰も予想だになかったと思います。人類の歴史を振り返ると、過去の病原菌との戦いの後では、世の中の仕組み等が大きく変化しました。アフターコロナの世界はどのようになるのでしょうか?

社会情勢等の変化も気になりますが、今一度、地球環境等への関わり方を、全人類が真剣に考えるきっかけになれば…と、思いました。

富山駅 近く

会議室を一般の方に**安価**でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。
詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。
<http://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください!

